

ベクトル

2021.5.12

会社や部活動など、あらゆる組織で最も難しいのは、社員や部員、メンバーたちの心のベクトルを一致させ、団結して共通の目標に向かうことである。特に、このコロナ禍という先行きの見えないうときには、社員同士の絆、部員同士の絆、すなわち人間力が求められる。

では、日本という国を一つの組織と見た場合はどうであろう。いかにベクトルを合わせることが難しいかがわかる。我が国は、どこに向かっているのか。そもそもベクトルを合わせる気はあるのか。日本人の美德はいったいどこにいったしまったのか。さすがに長期化して疲れてしまったのか。そうではあるまい。日本人は、もっともっと我慢強いはずである。このところ、日本人のよさが出にくくなってきている。

コロナの収束というゴールの前に、東京オリンピック・パラリンピックという大きな課題が待ち受けている。もうそろそろ結論を出すタイミングなのではないか。決断を下す役目を担う人たちは苦しいことだろう。重い責任である。ポスト、役職とは責任のことである。

福島県の状況もよくない。県内の感染状況がステージⅢと判断された。学校の教育活動においては、学校の行動基準レベル2の対応となる。これは、これまでも経験しているため、決して新しいことではない。とはいえ、学習活動としては、かなり制限されることになる。

生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等、理科における生徒同士が近距離で活動する実験や観察、音楽における室内で生徒が近距離で行う合唱、家庭科における生徒同士が近距離で活動する調理実習、保健体育における生徒が密集する運動や近距離で組み合ったり接触したりする運動などが該当する。

宿泊を伴う学校行事、部活動での他校との合同練習や練習試合等も停止である。これらの対象期間は、5月31日（月）までである。支部中体連総合大会の前日までとなる。

さて、どうするか。現状を嘆いても仕方がない。できることをやっていくしかない。授業でも部活動でも工夫が必要である。教員の腕の見せ所である。教員のプロ意識、プロ根性の問題である。制限されればされるほど、工夫やアイデアが必要となる。教員には、1年以上にわたる経験がある。蓄積されてきたものがある。今までの反省と改善点もあろう。

特に、部活動においては、まもなく最後の大会を迎える3年生への配慮を最優先に考えたい。練習試合ができなくても、3年生を中心にまとまった練習や活動をしていきたい。そして、いい形で終わりたい。そうすれば、きっと3年生の心の中には、何かが残るはずである。

一番大切なことは、生徒も教員も一人一人が、改めて感染防止に努める意識を高め、確実に実践していくことである。6月からは、対応レベルが下がり、支部中体連大会も県北地区中体連大会も開催されることを目指さなければならない。このことは共通の目標であろう。そうであれば、みんなベクトルを一致させ、団結しなければならない。今がそのときである。